

中国中学校体育連盟軟式野球部 大会運営に関する取り決め事項

中国中学校体育連盟軟式野球部
2016.86(専門委員長会議 岡山県倉敷市)

趣 旨

本連盟では、中学野球を通じて規則、規定の遵守とマナーの向上を図り、健全な青少年を育成するための一環として、下記の取り決めを決定する。

【 大会実施にあたって 】

- (1) 各県内の大会にあたっては、中国中学校軟式野球選手権大会の「実施要項」および「取り決め事項」に準じて、要項・大会規定を作成し、大会を運営する。
- (2) 各県、各地区、各支部大会の実情において、本規定と異なることがあれば、大会特別規定を設け、大会を運営する。

【 競技を行うにあたって 】

- (1) 「野球規則」及び「アマチュア内規」及び(公財)全日本軟式野球連盟「競技者必携」及び本規定による。
- (2) 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認球とする。
- (3) 使用器具は(公財)全日本軟式野球連盟公認のものとする。
試合前には担当審判員は、両チームの用具の点検を行う。両チームは審判員の指示に従う。
- (4) トーナメント方式とし、試合は7回戦とする。得点差によるコールドゲームを採用する。(5回以降7点差)。決勝戦はコールドゲームを採用しない。(準決勝終了後、決勝戦の開始までには45分間確保する。)
- (5) 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決しないときには、次のような特別延長戦を行う。

[特別延長戦]

継続打順で前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームの勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。

- (6) 暗黒、降雨などの天候状態によるコールドゲームは5回以降の得点をもって勝敗を決定するが、試合の規定により不成立の場合、または同得点の場合は翌日特別継続試合かまたは再試合にするかなど審判員と大会本部で協議して決定する。
- (7) 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行う場合もある。
- (8) ベンチは組み合わせの番号の若い方を1塁側とする。
- (9) 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
- (10) 選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
- (11) 応援団については監督が責任を持つ。

【 試合開始前 】

- (1) 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず何ら連絡がない場合は、棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- (2) メンバー用紙交換及び攻守決定は、第1試合は試合開始40分前、第2試合以降は前試合の4回終了時とする。但し、第1試合前に開会式がある場合や勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度本部で決定し連絡する。監督と主将はメンバー用紙を持参し、大会役員・担当審判員と打ち合わせをする。(メンバー用紙数については監督会議にて指示する。)
- (3) 球場内におけるウォーミングアップは登録選手のみ参加とする。
- (4) シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わる場合はこの限りではない。
 - ② 時間は7分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - ③ 後攻チームが先に行く。
 - ④ 登録選手の他に3名の補助員をつけて行うことができる。補助員は両耳付きヘルメットを着用する。補助員はノックの補助員でありブルペン捕手は出来ない。
 - ⑤ ノッカーは原則として監督、コーチに限り、上限2名以内とする。ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
 - ⑥ 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。但し、先発投手の投球練習場での投球練習と、終了2分前の通告後のベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。バットを持つての運動は禁止する。
 - ⑦ 守備練習であるからマウンドでの投球練習は認めない。また、マナー上、整備されたマウンドに入ることも認めない。
- (5) ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間や、シートノック終了時の試合開始の準備時間には、ベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。但し、バットを使用する際には監督、選手ともに細心の注意をして行うこと。

【 試合中 】

- (1) 試合の開始に主将同士の握手をする。その後、あいさつをする。
- (2) 選手交代の申し出は監督が行う。
- (3) 審判員のルール適用に対する疑義の申し出は、監督または当該選手に限る。審判員の判定に対しては抗議できない。
- (4) ベンチ内でのメガホンは監督用として、1個のみ使用を認める。
- (5) ベンチまたはダッグアウト内は禁煙。サングラス、グラウンドコートの使用は原則として認めない。(季節に応じてグラウンドコートの着用は認めることもある。)
- (6) コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。
- (7) 選手以外はコーチャーズボックスに入ることはできない。
- (8) 規則3.03原注「投手は同一イニングで投手以外の守備に2度以上つくことは許されない。」は適用しない。これについては、中学校野球では登録人員の関連で適用しないものであるので、これを作戦上の目的など本来の趣旨からはなれて使用することのないように留意しなければならない。
- (9) 交代して退いた選手も、ウォーミングアップの相手やベースコーチにつくこと、伝令をすることは許される。
- (10) 投手の準備投球は、初回と交代時7球以内・他3球以内とし、時間は1分以内とする。但し、状況により審判の判断で考慮することもある。
- (11) 走者・ベースコーチ・ベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

- (12) プレイヤーが負傷の治療などで、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が認めるときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を許可する。臨時代走者は打順の前位の者とするが、投手または捕手を除いてもよい。
- (13) ブルペンでの投球練習、交代の野手のキャッチボールなど必要以外の選手は、ベンチから出ない。但し、試合途中でグラウンド整備が入る大会においてはグラウンド整備の間はベンチ前でキャッチボール、素振りをしてよい。
- (14) 次打者席には必ず次打者選手がいること。
- (15) 本塁打を打った打者走者にベースコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めるためにグラウンドに出てはいけない。
- (16) 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、4回終了後、(メンバー用紙交換後) 試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。(球場設備の関係でその必要を認めない場合は監督会議において、そのことを徹底する。)
- (17) 危険防止のため、次のことを徹底する。
- ① 足を高く上げてのスライディング、体当たりは厳禁とする。現実に守備の妨害になったと審判員が判定したときは、走者をアウトにする。ラフプレー等、スポーツマンとしてふさわしくない恥ずべき行為は厳に慎むこと。スポーツマン精神に反するアンフェアなプレーを故意に行ったとみなしたときは、その選手を試合から除くことがある。
 - ② バットリング、硬式用バット、鉄棒の持ち込みは厳禁する。
 - ③ 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きマスク・ファウルカップを着用する。投球練習を受ける控えの捕手についても、ヘルメット・マスクは着用する。これは、ブルペン捕手も同様である。
 - ④ 打者・走者・次打者・ベースコーチは両耳付きのヘルメットを着用する。また、リストバンド**及び**ハイカットストッキングの使用を禁止する。
 - ⑤ 試合中のグラウンドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りをしてはいけない。
 - ⑥ 空タッチは禁止する。現実に走塁妨害と審判員が認めた場合は、オブストラクションB項を適用する。
 - ⑦ ストッキングは2枚はくこと。ハイカットストッキングのユニフォームは使用禁止。
 - ⑧ 捕手または野手が、明らかにボールを持たずに塁線上および塁上に位置して、走者の走路をふさいだ場合は、オブストラクションを厳格に適用する。なお、捕手または野手が、たとえボールを保持していても、故意に足を塁線上または塁上に置いたり、または脚を横倒しにするなどして塁線上または塁上に置いたりして、走者の走路をふさぐ行為は、大変危険な行為であるから禁止する。この行為により、正規にタグされればその走者はアウトになるが、審判員は捕手または野手に対して厳しく注意する。
- (18) 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。
- ① 無用なタイムをとることを慎む。またタイム中以外にみだりにベンチから出てはならない。
 - ② 攻守交代の時は、投手または投手板に一番近い野手がボールを投手板付近に置くこと。
 - ③ 攻守交代の時は、全力疾走で行う。
 - ④ 内野手間の転送球は一回以内とし、投手への返球は守備位置から行うこと。(試合進行上禁止することがある。)
 - ⑤ 打者は速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。また、むやみに打者席をはずさず、サインは打者席内から見る。打者席に入るときの挨拶ではヘルメットをとらない。
 - ⑥ 投手は必ず軸足を投手板につけて捕手のサインを見ること。
 - ⑦ 先頭打者とベースコーチは、攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置に着く。
 - ⑧ 守備側からのタイムで試合が中断したときは、その間投手は捕手を相手に投球練習してはならない。
 - ⑨ ツーストライク後のカットは故意と審判員が認めるときはバントとみなす。
 - ⑩ 捕手はイングのはじめに野手に声を掛けるためや投手に返球するためにホームベースの前に出ないこと。
- (19) 選手はベースキャンバスに腰をおろすことを禁ずる。
- (20) 監督が投手のところに行く回数の制限(8・06関連)

- ① 「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- ② 伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合もあてはまる。
- ③ ボールデッド中で改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であればあてはまる。
- ④ 監督が、同一イニングに同一投手のところへ2度目に行った場合、投手は交代となる。但し、交代した投手が他の守備位置につくことは許される。
- ⑤ 監督が投手のところへ行ける回数は、7イニングの試合にあっては3回以内とする。
- ⑥ 延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングに1回とることができる。
- ⑦ 相手チームのタイム中に投手のところに行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は投手のところに行ったことと見なされる。
- ⑧ 監督が投手のところへ一度行くか行ったとみなされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。ただし、球審が知らせなくても、監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代することになる。
- ⑨ 試合進行に、関わり、必要がないのにタイムをとることは慎む。

(21) 守備のタイムに関わる制限

- ① 捕手を含む内野手が投手のところへ行き守備のタイムをとる回数は、7イニングの試合にあっては3回以内とする。
- ② 野手（捕手も含む）が投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方一度として数える。投手交代の場合はその回数に含まない。（監督が先に行った場合も同様とする。）
- ③ ボールデッドで改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
- ④ 延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングに1回とることができる。
- ⑤ 集まれるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令だけとする。
- ⑥ 試合進行に関わり、必要でないのにタイムをとることを慎む。

(22) 攻撃のタイムに関わる制限

- ① 攻撃側のタイムをとる回数は、7イニングの試合にあっては3回以内とする。
- ② 相手チームのタイム中にベンチから出て選手に指示を与えることは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、タイムをとったことと見なされる。（選手をベンチに呼び指示を与えた場合も同様とする。）
- ③ 延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングに1回とることができる。
- ④ 試合進行に、関わり、必要がないのにタイムをとることは慎む。

(23) 投手の投球イニング制限

全国大会では、投手は1日9イニング以上投げてはならない。（特別延長戦はイニングにカウントしない）が適用されるが、中国大会では適用しない。

【試合後】

- (1) 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。
- (2) 試合の終了時に主将同士の握手をする。その後、あいさつをする。その後速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
- (3) 原則として、試合の終わったチームは、グラウンドの整地、ベンチ内清掃とスタンドの清掃をすることとする。（大会によっては本部の指示に従うこと）

【その他】

- (1) 負傷でテーピング等をしている選手は予め審判員の承認を得ること。露出する部分については肌の色に近いものを用いることが望ましい。投手は投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- (2) リストバンドの使用は認めない。

- (3) プレーヤー、審判員に対する個人攻撃は厳禁する。相手プレーヤー、審判員に対して絶対暴力行為などがあってはならない。万一、このようなことが起こった場合は、没収試合とする。
- (4) 応援団は次の事を守って応援すること。(自チームの応援団については、全責任をもつこと)
- ① 応援はあくまでも自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいさぐよな言動は禁止する。
 - ② 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は座っていることが望ましい。
 - ③ 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁止する。
 - ④ 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - ⑤ 試合を妨害するような応援はしない。
 - ⑥ メガホンを使用してもよい。
 - ⑦ 投手が投球動作を起こすと同時に、喚声をあげたり、鐘、太鼓、笛を鳴らすなどの応援は慎みたい。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時も同様に慎みたい。
 - ⑧ 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - ⑨ スタンドや客席にテントを張ることを禁止する。(但し、天候により考慮する。)
- (5) 監督・コーチ等の服装については次の通りとする。
- ① 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は背番号30をつけるものとする。ユニフォームを着るコーチは背番号28, 29をつける。また、選手と同じ色のスパイクを履くこと。
 - ② コーチではない教員がベンチ入りする場合は、平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白ポロシャツ)に選手と同一の帽子とする。但し、女性は考慮する。(ユニホームは着用しない。)
 - ③ サングラスは使用しない。(但し、健康上の理由では考慮する。)
- (6) ユニフォームの着用にあたっては次の点を注意する。
- ① 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
 - ② だらしない着用は認めない。
 - ・上着の裾を出さないことはもちろん、たるませずベルトが見えるように着る。
 - ・パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ・肩の部分をたくしあげない。
 - ③ サングラスは使用しない。(但し、健康上の理由では考慮する。)
- (7) 特記なき事項については、公認野球規則、(公財)全日本軟式野球連盟の競技者必携、アマチュア野球内規に準拠する。また、用具・装具の規則については、中国中体連野球部用具・装具規定に準ずる。

【付記】

この取り決め事項は平成22年4月1日より施行する。

平成29年度より大会要項 9参加制限(1)(2)が下記のように変更される。

- (1) ベンチ入りできる者は監督(引率責任者)1名、選手18名以内(スコアラーを含む)とする。また、この他に教員を2名追加することができる。但し、外部指導者(コーチ)が入る場合は1名とし、計21名以内とする。
- (2) 選手は同一のユニフォームを着用し、背番号は1~18(スコアラー)を含むとする。監督、コーチは選手と同一のユニフォームを着用し、監督は背番号30を着用し、コーチは29, 28をつける。(H29年度全国大会では適用)

H23. 8. 6 上記変更に伴い、本文より部長という言葉~~を全削除した。~~
 【競技を行うにあたって】(11) 【試合開始前】(1)(4)⑤
 【試合中】(7) 【試合後】(1) 【その他】(5)

H23. 8. 6 上記変更に伴い、本文【その他】(5)①、②、④を変更

H23. 8. 6 【競技を行うにあたって】(3)バットの内容を変更

H24. 8. 7 【試合中】(18)⑩追加 (21)①変更
 【その他】(4)⑨、(5)②に追加事項

H 2 5 . 8 . 6 【試合中】 (17) ③に追加事項 (21) ②に追加事項
【その他】 (5) ④を全文削除

H 2 6 . 8 . 6 【試合中】 (20) ⑤変更 ⑥追加 ⑥追加に伴い⑥を⑦に、⑦を⑧に変更
⑨追加
(21) ①④に変更事項
(22) ①②③④追加 (22) の追加に伴い (22) を (23) に変更